

日本作文の会編

日本の 子どもの詩

高知



日本作文の会編

日本の 子どもの詩

高知

岩崎書店

日本文作の会

日本の子どもの詩 39

岩崎書店 昭58

110 p 21cm

内容：39 高知

〔分〕911

日本の子どもの詩 39 高知

一九八三年七月二五日 初版発行

編者 日本文作の会

発行者 大川松利

印刷所 株式会社 K・M・S

株式会社 金羊社

製本所 小高製本工業株式会社

発行所 岩崎書店

東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八一二―九二三―(代)

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ゼンたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもたちの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによつて、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの「わらべうた」）としても、大きな意味があります。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「高知編」であります。どうぞ、ひとつひとつついていねいにお読みください。

もくじ



1918
~
1945

8

五月雨

すみ

蝶々おにごっこ

9

鳶

僕の蜂退治

木の葉が散る頃

学校ごっこ

10

三月月とほし

室戸岬

11

雨とさつき

かかし

秋の虫

12

ふんすい

はがえやさん

日あたり

日本晴

13

あやめ

夕日

夕日

麦かり

うおつり

みそや

ごむまり

たまご

三日月お月さん

新しき思い出

秋

葬式

にわ

はりやま

虫

紙しばい

ハコニワ

へいたいさん

夜明け

雲のかげ

山



1945
~
1959

20

ままごとあそび

えんそく

- 21 七人のさむらい
 川
 ふきのとう
 こうこく
 こえふり
 え顔
 春の海
 空
 23 おじいちゃん
 にじ
 24 おじぎそう
 25 げんぱくの子
 つばめ
 26 しょうい軍人
 あばれた牛
 27 いんさつ
 麦かり
 28 きゅうりのつとり
 かや
 29 映画「ひろしま」を見て(1~11)
 風呂
 35 漁師の子
 田草取り
 36 しけ
 はたらいた
 37 たきび

- 38 新しい本
 父は死んだ
 稲
 39 はんぎ
 墓まいり
 40 平和になるぞ
 みか月
 41 百にちぜき
 けむり
 42 かじはぎ
 43 くすりやさん
 せんそう
 44 写生
 くも
 45 夜道
 麦ふみ
 46 牛
 いえ
 朝の新聞配達
 1960
 ~
 1969
 48 さんかんび
 さんかんび



49 やぎ

牛

リボン

50 ぶたの子

つくし

51 とんび

土佐闘犬

52 どんこ

ころの目

53 うみ

かぶとむし

54 たなばたさん

水の中

すいか

55 せんたく機

麦こきの日

56 分数

麦ゆわえ

57 おとうちゃん

じゃこほし

58 なめくじ

59 うちの牛

おまつりのたいこたたき

60 牛おにのしかえし

いねこき

とほ(徒競走)

61 すみやきのおじさん

私の家の文たん

62 おとうちゃん

桂子ちゃん、さようなら

63 ハラがへった

64 アメリカ

65 放射能

お正月

まあしげり一ぱつ

66 ふろ

たばこをうったこと

67 あみなおし

おとうちゃんの手

68 浦戸湾

江ノ口川

70 やきいも

毛糸のぼうし

71 コックリコックリする母

72 冬の海

いわし干し

73 はみきり

74 出かせぎに行ったとうちゃん

出かせぎの父

75 幼いころは

かせをひきなよ

76 てっちょらんすいか



1970

～

78 先生すきです

ぶらんこ

79 おとうさんへ

せんせいにおんぼしてもらった

80 へんてこなきしゃ

「ふさお」がもんた

しゃぼん玉

81 先生、知っていますか

水さいばいのクロッカス

82 ふとん

春はもうすぐ

83 磯釣り

土づくり

84 夕焼けのサルビア

85 にじ

うし

86 おかねもちになったら

田んぼのかいだん

87 おとうちゃんのあたま

お母さん

山もも

88 トラックの運転をするお父ちゃん

おじいちゃんとうろう

89 台風接近

90 こわりの入れかえ

91 おおしき

92 先生のおい

夕日

93 おとうさんがおごったこと

牛の絵

おかしをぬすんだ

ふとん

94 おじいさんのおい

しょうがほり

95 いな木の水牛

96 先生、しあわせやろ

豆しょうぶ

97 廃校

オランダ坂

98 おもかげ

ゆき

99 ぼくのはな

本よみ

100 しょくどうをはじめ

101 よさく

ひょうしょうじょう

102 男のくんしょう

もんのへいさん

103
バリヤー

おとうさんについて沖へ行く時

104
冬の瀬

父のぬくもり

今

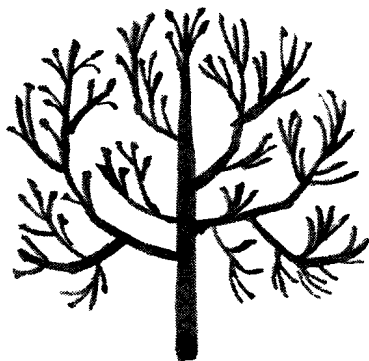
105
夕ぐれ

106
*

110 107

あとがき——高知県の児童詩指導の歩み
この本の編集をした人たち





1918～1945

(大正7年)

(昭和20年)

* 南国土佐の力強くて美しい自然は、のびのびとした、たくましい子どもたちを育てます。

* 高知県の子どもたちは、昔の子どもも、今の子どもも、美しい自然や、身近な人々のことを、のびのびうたいあげてきました。

* ごらんなさい。ここからは、五・六十年も前の子どもたちがうたった詩です。雄大な室戸岬をうたったおにいさんもいました。

五月雨 さみだれ

午後の四時、

窓の下とろの鶏さん、

煙管たばこの爺じいさん、

齒はのない婆ばあさん、

机つくえの父さん、

針はりもつ母さん、

みんな一しよに

あくびした。

あくびばかりの五月雨。

すみ

黒い黒い炭すみさんよ

あなたの体は真黒まっくろだ

かんかんおこれば赤くなる

高橋永久 小3

土佐郡桑尾校

吉松文夫 小3

8

赤い赤い炭さんよ

頭に白毛しらがが生はえてきた

オヤオヤ顔も手も足も

とうとう灰はいになっちゃった

吾川郡長浜校

蝶々おにぎり ちようちよう

きいろい蝶々 ちようちよう

白い蝶々

たくさんよって

なのはなかこんで

おにごっこ

蝶々の学校は

どこにある

蝶々の先生

だれだろう

宮本 静 小4

吾川郡長浜校

薦とび

小栗忠正 小4

薦が輪わをかけた。

学校の上で三べんまわって、

ピーヨロ。

お山をこえて、見えなくなつて、

さびしいこえて又ないた。

ピーヨロ。ピーヨロ。

高知市江ノ口校

僕の蜂退治はちたいじ

小島光次郎 小5

いたずら好きの僕たちが、

竹ざお持つて蜂退治

門をやぶつてせめこむと

蜂の大将たいしやうおや蜂が

おこしの針をふりたてて

僕の頭かぶのてんこすを

ちくりと深くさしました

9

僕はいたくてにげかえり
梅うめずつけたらなおったよ

吾川郡長浜校

木の葉が散る頃

小崎絹恵 小4

ちるよ ちるよ

木の葉がちるよ

何処どこの木の葉も

ちり出した

これから木の葉が

ちるばかり

風にさそわれ

空へくるくる

ちるばかり

吾川郡長浜校

学校ごっこ

三宅忠義 高1

見える限りの大野原

たった一本の松の木が
草のせいとを四方に集め
学校ごっこをしています

幡多郡十川村第二校

三日月とほし

目代恵美子 小2
「三日月さんは あたまが
かけてる」と

ほしに わらわれてる

三日月は おこつて

「こらまで こらまで」と

わたしたちが ねているのに

けんかを している

高知市高知第五校

室戸岬

村田新策 高1

真広い太平洋の果から

押しよせてくる波は、

南国土佐の尖端に横たわる

室戸の岬に突きあたる。

壮大な銀の飛沫を天空にちらして、
男性的な怒号を

お前は幾百年の昔から

挙げて来たことか。

おお、あの巖を見よ。

たくましい健児のこぶしだ。腕だ。

その巍然たる岩頭に

とび交う海鳥の勇姿は――。

曙光

夕映の光が

照りさす時の美景は――。

塩辛い潮と荒れ狂う怒濤に、

思いきりすり清められたお前は、

ちようど労苦と忍耐に刻まれて

立身した人の如く、

今りっぱに成人したのだ。

何千年きたえた尊いその姿を、

お前は今依然として現しているのだ。

歴史の香高き南国の土佐に、

お前はよくも生まれて来たものだ。

室戸、
室戸、

お前は全く海岸の典型だ。

お前の前に立つと、

我らの胸も高鳴ってくる。

天地創造の神の、

偉大なる力に驚きつつ。

香美郡田村校

雨とさつき

公女清利 小2

くらい やみよに 雨がふる。

おにわの さつきも ぬれたでしょう。

しほしほ ふる 雨 さむい 雨、

赤い さつきも さむいでしよう。

香美郡岸本校

かかし

佐竹茂美 小3

ひろいたんぽに立ってるかかし

雨が降ってもさむくはないか
風がふいてもさむくはないか
夜になってもさびしくないか
やぶれたきものをきているかかし
風がふいたらさむいだろう
お手でひろげてかた足立てて
ひろいたんぽに立ってるかかし

吾川郡長浜校

秋の虫

宗竹兎桂子 小3

秋の虫はうれしそう

ちろりんちろりん

なっている

ちろりんちろりん

なくときに

どんなに遠くへ

きこえましよう

ちろりんちろりん

なくときは

どんなに心が
うれしいでしょう

香美郡赤岡校

ふんすい

大家源吉 小 4

お日さまが
ぱつとあたると
お池のふんすい
にじがたつ

長岡郡本山校

はがえやさん

浜田静雄 小 5

ひゅうひゅう、ひゅうひゅう、
桜の木かげで、はがえやさん。
下駄の歯板をけずってる。
ちよろろ、ちよろろ、
風が
かんなくず動かしした。

高知市江ノ口校

日あたり

浜田健郎 小 5

「ジョン」

とよんだら

ちよつと顔あげて

又ぐつたりと

ねころんだ。

あたたかい日あたりの庭で

又ぐつたりと

ねころんだ。

高知市江ノ口校

日本晴

平川福馬 中 1

友よ見給え

空には雲一つない日本晴だよ
馬も嬉しそくに草を食っているよ
子供も嬉しそくに遊んでいるよ

幡多郡中村町校

あやめ

刈谷 智 高 1

淡靄^{うすもろ}が消えると

夜がこっそり、忘れて行った

朝月の下に――

あかるくも花をもったかわいいあやめ

長岡郡岡豊校

夕日

大元 たまき 小 3

一面に

ちらばっていた

雲が

きゆうに

赤くなって来た。

どうしてだろう。

赤い夕日。

香美郡夜須校(指導)岡本 弥太

夕日

宗竹 兄桂子 小 4

夕日がしずみかけた。

みなぼつぽつかえって行く。

夕日はしだいにくすくなり、

人のこえは聞こえない。

犬のこえがうなるだけ。

今日はほんとうにさびしいな。

夕はんすまして出てみると、

お空の夕日はきえていた。

香美郡赤岡校

麦かり

笹 幸美 小 4

とうさん かあさん にいさん

今日は一日麦かりよ。

畠^{はたけ}のすみの木の下で

私は一人で遊びます。

かげが小さくなったらば
おひるのおつげよ。

おべんとうよ、うれしいな。

香美郡夜須校(指導)岡本弥太

うおつり

高田玉寿 小4

兄さん

小川でうおつり。

一人さびしくこしかけて、

さらさら吹く風を

見つめてた。

土佐郡桑尾校

みそや

浜田龍一 (不詳)

きんざんみそやがとおった

きんざんみそーとよんでとおった

夕方の道をとおった

吾川郡弘岡上ノ村校

14

ごむまり

美村貞子 小4

ころころ、ころころ、ごむまりが、

えんのそばにころがるのを

ねこが見つけてはしっていった。

すずをとるようにはしっていった。

ねらいをさだめてはしっていった。

なんべんとっても

ころころころ

ねこはおどろきにげ出した。

香美郡赤岡校

たまご

岩村菊子 小5

白いたまご

小さいたまご

かごの中で

ころころころがつてる